

小規模企業景気動向調査 [2025年8月期調査] ～緩やかな回復が続く中、利益確保が鍵となる小規模企業景況～

<産業全体>

8月期の産業全体の景況は、売上額DIが小幅に上昇、資金繰り・業況DIはわずかに上昇し、採算DIは不変だった。資金繰り・業況DIは5月期から4か月連続で上昇。コスト高や人手不足に苦しみ小規模事業者が多い中、最低賃金額改定目安が公表され、さらなる人件費の上昇を懸念する声が散見されたことにより、産業全体としては緩やかな回復に留まった。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		4.4	7.2	2.8	4.7
採算	▲	17.1	▲ 17.2	▲ 0.1	▲ 1.1
資金繰り	▲	14.7	▲ 13.7	1.0	▲ 1.1
業況	▲	14.2	▲ 13.0	1.2	▲ 2.0

<製造業(食料品、繊維、機械・金属)>一時的回復から継続的改善へ期待が高まる製造業

製造業は、売上額DIが大幅に上昇、採算・業況DIは小幅に上昇し、資金繰りDIはわずかに上昇した。季節需要等の影響により、10か月ぶりに全DIが上昇したが、売上額を除き、前年同月上回るまでには至らなかった。繊維関連は、季節需要等から売上を維持しているが、人件費や仕入価格上昇等に苦しみ状況が続いている。一方、小ロットの注文等、受注は安定しているとの声もあり、小規模事業者ならではの取組が期待される。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		1.3	6.4	5.1	4.8
採算	▲	21.9	▲ 19.8	2.1	▲ 1.0
資金繰り	▲	17.0	▲ 16.5	0.5	▲ 2.6
業況	▲	19.7	▲ 17.1	2.6	▲ 3.6

<建設業>堅調な需要の中、人手不足・人件費増加への対応が急がれる建設業

建設業は、資金繰りDIが小幅に上昇、売上額・業況DIはわずかに上昇し、採算DIはわずかに低下した。売上額DIとしては5月から3か月連続で上昇も、資材高騰や人手不足による外注依存により採算は悪化した。各地で災害が多発する中、被災地での復旧支援により、稼働が高水準で推移しているとの声も聞かれており、需要は堅調であるが、設備投資による省力化や業務効率化等、人手不足及び人件費増加への対応が求められる。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		7.2	9.1	1.9	4.1
採算	▲	15.3	▲ 16.2	▲ 0.9	▲ 1.9
資金繰り	▲	15.8	▲ 13.1	2.7	0.7
業況	▲	11.4	▲ 10.5	0.9	▲ 0.8

<小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)>物価高による消費低迷から、回復の機運に乗り切れない小売業

小売業は、売上額DIがわずかに上昇、資金繰り・業況DIはわずかに低下し、採算DIは小幅に低下した。衣料品・食料品関連は、季節需要により、売上額DIは上昇したが、長引くコスト高の影響で、継続的な価格改定が難しい。また、消費者の節約志向が続いており、採算や資金繰りの悪化を示すコメントが散見された。耐久消費財関連は、好調の声も散見されたが、猛暑による外出控えや仕入価格上昇等により、売上額・採算DIは低下した。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		3.7	5.2	1.5	6.8
採算	▲	19.3	▲ 21.9	▲ 2.6	▲ 1.6
資金繰り	▲	15.0	▲ 16.1	▲ 1.1	▲ 0.3
業況	▲	17.6	▲ 18.1	▲ 0.5	▲ 1.4

<サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)>旅館関連がけん引するも、コスト高に苦しむサービス業

サービス業は、売上額・資金繰り・業況DIが小幅に上昇、採算DIはわずかに上昇した。継続するインバウンド需要に季節行事等が重なり、サービス業全体で5か月ぶりに全DIが上昇。特に旅館業は、4か月ぶりに業況DIがプラス値となった。反面、原材料価格等の高止まりは継続しており、旅館や理・美容関連では、猛暑による電気コスト増に苦しみ声も散見された。外部環境に依存しない持続可能な収益構造の構築が急務である。

	DI	7月	8月	前月比	前年 同月比
売上額		5.2	8.3	3.1	3.3
採算	▲	11.9	▲ 10.8	1.1	0.2
資金繰り	▲	11.0	▲ 9.0	2.0	▲ 2.0
業況	▲	8.3	▲ 6.1	2.2	▲ 1.8

調査概要

・調査対象: 全国 303 商工会の経営指導員(有効回答数:248/回答率 81.8%)

・調査時点: 2025年8月末

・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。